

ブログは、最初の方が読めないうちに消えてしまった…順番が逆になっている為に読みにくい…などの声が聞こえてきましたので、最初から順番に続けて一つに致しました。

お読み戴ければお分かりの如く、講師がいくら熱心に教えても、サークルに異分子が混入し、対立するとサークルが乗っ取られる恐れは、どこでも起きかねません。参考までに……！

イジメ と ダンス

滋賀県の大津市立中2年男子生徒の飛び降り自殺が、大きな話題となっています。私も浦安市のある小学校で、いじめを目撃…というか、私が教えている授業の合間に経験致しました。

その小学校は浦安市でも問題があり（特に4年生）、ダンスを通して生徒同士が仲良くなれば…、との問いかけで私も引き受けたのですが、体育館で4クラス、40分間授業を2時限行った、その中間の休み時間でした。

4～5人参加していた先生が教員室へと引き上げた後、フロアの中央で1人の男子生徒を4～5人の男子が「殴ったり、蹴ったり」しているのです。

私は、舞台の上からマイクで「やめなさい！」と大きな声で叫びました。

授業の最初に、ダンスを踊る時は、相手のパートナーだけでなく、他の人にも迷惑を掛けないで、仲良くすることが大切！…、と言ったそばからの「いじめ」が行われたことがショックでした。

「いじめ」って本当に有るんだ！私は後半の授業がとても長く感じられたのを覚えています。教職員室に帰ってきて、担任の先生に聞いたところ、「そうなんですよね！」と余り真剣に考えていない様子。（普通だったら、直ぐにクラスにとんで行くのが、当たり前ですよ！）

この度の「大津中学校」の先生や市の「教育委員」の対応は、表面的な事なかれ主義の典型として、積極的に行動しないのが、今回の自殺にまでつながったものでありましょう。

これと同様なことが、浦安市で起きてても不思議ではない！と思われました。

今回の問題で、越大津市長が「学校や市教育委員会の調査が不十分であった。と謝罪していますが、教育関係者やテレビでの有識者の言によると、「行政と教育は互いに業務に関与できず、市長は、教育長を任命し、教育委員（教育長を含め5名）は、市議会の同意を得て任命し、任期は4年ですが、市長でも「教育関係には口出し出来ない事」、になっているのだそうです。

私がここに問題を提起するのは、無論、「子供のいじめ」が主題ではなく、市の「教育委員会」の有り方なのです。（市の生涯学習課、公民館館長の業務内容について、後に触れて参ります。）

大津市と同様、浦安市の教育委員会も、5名の委員の内、教育長を除いた4名は一般の囑託であり、殆んどは元教育関係者であり、月に1度の会合は生涯学習部・次長を始め、生涯学習課長や各公民館の館長（7名）などが出席し、その報告を聞いて可否を判断するだけです。問題があった時、その当事者から直接、事情を聴取する等、自らが調査することなく教育委員会は決定を下してしまうそうです。

大津市でも問題になっていた如く、市の職員は互いに庇い合い、教育長は下の職員の不利になる事は目をつぶってしまうこととなります。学校や官僚特有の「事なかれ主義」が現実なのです。従って、職員の報告は、そのまま教育委員会によって承認・認証され、決定されてしまうのです。

◎【認証】とは、（一定の行為又は文書が正当な手続・方式でなされたことを公の機関が証明する事。）

私が真面目にボランティアとして講習してきた浦安市で起こった卑劣な裏工作と市の担当者による、強権的な措置による、財産と認定団体の権利の強奪の実態をお読み下さい。

浦安市でのダンス活動

当初、浦安でサークルを始めた時、多くの方に「何でそんな田舎(?)で儲からないサークルなんてやるの?」と聞かれました。私は、市のダンス愛好者と正しいダンスを普及する為の「指導員」を育てること、出来ればそれが子供ダンスの普及に繋がれば、という事が目的です。」と応えていました。

私の家の近くに「市民プラザ」という公社があり、よくダンス・パーティが開催されました。二度ばかり見に行きましたが、3～5年以上踊っていると思われる人達の基本が酷いのにビックリしました。

ルンバは半数以上のカップルがリズムを外し、ステップは競技会で踊られる様なド派手なステップで、チャチャチャでも3割以上の方がリズムに合っていないのです。クイックステップのプログレシブ・シャッセや、フォワード・ロックの第4歩、及びワルツのシャッセ・フロム・P.P.の同じく第4歩の左足、トゥで取るステップを、ヒールから取っているのはごく普通で、ワルツのナチュラル・ターンや、リバース・ターンの第2歩目をヒールから取っている男性も、三人や四人ではなかったのです。

私が、約20年前、当時の市の教育長にお会いした時に「私も浦安市に引っ越してきて10年にもなるので、何かボランティアでお返しをしたいと思う」と話したところ、それでは「市民の為のダンス教室が良いのでは」、という事になり、平成4年の9月から6ヶ月間を「市民の為の無料ダンス教室・レッツ・ダンス」として、中央公民館の主催事業としてスタート致しました。

当時、N.H.K.の趣味講座「レッツ・ダンス」が終了して間もなかった事もあり、50名の定員がアツという間に一杯で、キャンセル待ちが多く、翌年に「2期生」を募集する事になったのを覚えています。

無論、私も謝礼は一切受け取らず、公民館も受講者からは料金を貰っていない筈です。初心者のみ、必ずカップルで、との条件をつけたにも係わらず、既に他のサークルに在籍して3～5年以上、ダンスに打ち込んでいた方も居られました。好評裏にレッスンが終わった時点で、公民館から「5,000円の図書券」送られました。私も最初は固辞したのですが、最後は好意として受け取りました。(6ヶ月間で5,000円、辞退するのも失礼と思いました。当時の私の講演料は、1時間半で30万円位でした。)

平成5年2月末で半年間の「入門コース」が修了した時、大塚進さん(浦安市施設振興公社理事長)夫妻を始めとする数人の方が「続けてダンスを教わりたい」との申し出があり、公民館とも相談した結果、「2期生」が始まるまでの6ヶ月間、毎週同じ金曜日の7時を「サークル」に4階の大会議室を貸して戴ける事になり、「レッツ・ダンス・サークル」が設立・スタートされたのです。

当時、私は講演会や地方の協会に呼ばれて大変に忙しかつたのですが、皆さんの熱意に負け、1～2年の積りで引き受けた結果が、何時の間にか20年の長期になってしまいました。

両者間の話し合いでは、私からの提案で、「レッツダンスサークル」の名称を使用する。会の運営は役員会が行うが、「両者同等の権利で運営する」即ち、どちらかが「辞める」と決定すれば、即座に会は解散する。との事が確認され、私の目的・趣旨(後述)に沿ってレッツダンスサークルの方針が決定されました。後日、役員から出された要望は、「男女とも1人でも入会を認めること」、のみでした。

無論、私のレッスンは、[無料]でしたが、提示した会の目的・趣旨とは、次の三つでありました。

1. 浦安市民の正しいダンス愛好者（基本に沿った）を増大させること。
2. 地域への還元（親子のダンス・学校教育への参加・他団体と連携等。）
3. ダンス指導員の育成への協力。（単に資格を取得するのではなく、初心者を教えられる指導員の養成）

正しいダンスの普及の為に、私が基本の習得に関して最も重視した方針とは、次の4点でありました。

- a. 正しい姿勢（ポスチャー = posture）
- b. 組み方（ホールド = hold）とリード
- c. 音楽（リズム = rhythm）
- d. 足の使い方（フットワーク = footwork）

以上、4つの基本を身に付けなくて、5年・10年とダンスをやっても、絶対に上達致しません。

サークルの目的は、いろいろあっても良い、と思います。健康の為に、年配の方が散歩やジョギングの代りにすることもありましょう。競技選手のクラスも有って良いと思います。私も初心者コースでは、難しいことは言わずに、良い姿勢とリズムに合わせて踊る楽しさを覚えて戴く様に指導しています。然し、初心者コースを修了し、少しダンスが面白くなってきたならば、ホールド、フットワーク、膝と足首の使い方や、ラテンのフリー・アーム、リード、ルンバ・ウォークやリズムなど、基本を教えます。

悪い癖がつくと、初心者より大変で、直すのに三倍は掛かる、即ち二ヶ月間身に付けた癖を直すのに半年間の日時が必要となります。

初心者から始め、少し踊れる様になるとパーティ等で他の組が使っているフィガーが習いたくなります。

各種目とも、フィガーは何百・何千とあります。但し、初心者にも毛の生えた程度の人が、プロの競技会で使用している様な（上級な？）フィガーを踊っても、かえって可笑しいだけで、上手にはなりません。

平成6年2月に2期生が修了し、レッツに加わり、サークルは本格的に始動し始めました。当初は役員の方が会場を取るのに苦労され、文化会館や各種公民館でレッスンは行われましたが、当代島公民館が新しく建設されるや、レッツ・ダンス・サークルの本拠地は当代島となり、今年で20年目になったのです。

故大塚会長が老齢の為、会長を辞められ、2代目の古場頼子会長を代表とする役員会とは定期的に両者の会合を持ち、会の運営は友好的でありました。

然し、古場会長が「浦安ダンス協会」の設立と理事長として多忙になった為、現女性会長Aを指名し、副会長がM氏になったのが、今回の騒動の元（原因）でした。新体制になってからは、私とのコミュニケーションは殆ど無く、古い役員も定期的に新しい人に代り、今の役員会は独自の路線を歩み始めました。

当時（4～5年前まで）は「レッツ」と、その卒業生による「ダイアフラム」（毎週月曜日、富岡）だけであったので、私も何とか毎週対応してきました。（連盟の行事・その他特別な事情の無い限り）

この10数年の間に、浦安市内にも30名以上の地域指導員（ボランティアで地域のダンス愛好者を教える資格の所有者）も育ってきました。（浦安での講習会は私が行い、受験者は受験料・年会費を支払いました。）その地域指導員は、現在も育成中です。（現在は20余名と、少し指導員が減少しています）

地域指導員資格を取得した方の中には、引っ越した人、合格しても登録をしなかった人もいます。

新浦安駅前の市民プラザ（公社）から毎週火曜日（5:30～7:00、7:15～8:45）の講座を頼まれ、引き受

けてしまったのも、その指導員を実地に教育する良い機会と思ったからでした。実際に、定員一杯に入会した初心者は途中で落後する人も少なく、同じコースを数回受講する人もいました。(年配の方等)

前半は古場先生(プロの資格を取得)にお願いし、「地域指導員」が補佐をし、後半(ステップ・アップ・コース、入門を修了した方)は私が受け持ち、地域指導員7~8名程度の方に補助して戴き、時には順番に講師を受け持ち、経験を積んで頂いた結果、大変に好評で継続中、5年目に入っています。

そこで止めておけば良かったのですが、噂を聞いたのか、富岡ダンス(木曜日)、高洲のキューピッド(土曜日)と二つのサークルの役員の方から「会員が減少しサークルとして成り立たないので、ご協力を願いたい」との申し出があり、私が引き受けてしまった結果、現在、両方のサークルとも30名を超える会員に増え、地域指導員の助けもあり、全て順調に活動しています。(当初は5~6名の会員でした)

その間、小学校の授業やクラブ活動、公民館事業の夏季講座の「親子ダンス」、(財)浦安市施設利用振興会主催・初心者向け講習会、見明川総合型地域スポーツクラブ等々、講師・指導員ともに、ボランティアで活動しています。親子から始めた子供が、武道館の全日本ジュニアで決勝5位に入賞しました。

一つのクラスに5~6人から8~9人もの指導員がつくことによって、運動神経の悪い人や、ステップを覚えられない年配の方などを集中的に教えてくれることで、途中で辞めないで元気に楽しくダンスを学ばれることは、他のサークルで見られないであります。又、途中から入会した人も、同様です。

カリキュラムやルーティン(どの様にステップを続けるか)も、全てその日に習った事は、毎回資料を生徒さんにお渡ししています。(他のサークルで同様なことをやっているところは余り無いと思います。)

私が関係している、他のサークルと同様、レッツダンスも会員が増え(途中で落後する人が少ないため)一時は90名を超える会員数になりました。問題は、「役員達が自分達の成果である」と思っていた事です。

5~6年前に入会した現在のM副会長が、私の批判を廻りの人に言っていた事は私も知っていました。不平分子は何処にも居ます。他のサークルからレッツに入会した人でも、私は気にせず教えてきました。

昨年、その人が退会届を提出した事は聴きましたが、会長が握り潰した為に、会則に沿わない副会長が2名に増えました。その人達が、昨年暮れから今年にかけて、レッスンや練習会の前後に仲間を誘って喫茶店等で私のレッスン方法などの批判を言っていた(皆、自分の先生が一番良い、と思っているものです)、ことは、いろいろな方から耳にしていました。私は、私のレッスンを受けた人だけで良かったのです。

唯一、私が犯した失敗は、それ迄、毎週私自身が行ってきたレッスンを、隔週を指導員に任せて[後輩の指導]と[自主練習]としたことでありましょう。(他のサークルでは成功しています)

然し、毎週、全ての夜間をサークル活動に取られたのであれば、私も仕事やこの[ホーム・ページ]を書く時間が無くなってしまいます。

私としては、指導員資格を所持している人が、自主的に勉強し、近い将来自分達で{初心者}を教えられ、自分達で[サークル]を担当できる様になることを願っての事でありました。

ダンス界の中でも色々な事がありましたが、この様に[卑劣]で[後味の悪い]思いをしたのは初めてでありました。然も、自分が教えてきた生徒達(例え、数名であっても)から受けた事であるから余計であります。

私は、上級者だけでなく、初心者を教えることにも楽しさ・教え甲斐を感じています。今後、何年教えることが出来るか判りませんが、正しいダンス愛好者を育てて参ります。

サークル開始時の約束・信義や、師弟関係・仁、礼などは、今の時代では必要無い事なのではないか。それでも古くからの会員の8割以上の方が、私に付いてきてくれた事を感謝しています。

レッツ・ダンス・サークルの乗っ取り

今年の1月13日、理事会に出席し、私から「スタート時からの会則に沿って運営して行ってください」とお願いした時に、副会長が不服そうな顔をしていたので、私が、「私にも辞める権利がある様に、貴方がたにも辞める権利はありますよ」と言ったのを、「私が辞任を申し出た」と故意に企んで、会長が皆に「先生から辞任の意向がありました。お疲れになっているのかもしれませんが」と伝えて、講師の変更を図ったのです。前述した通り、私が辞める時は「レッツ・ダンス・サークル」は解散する時です。

その副会長を始め、2~3の人以外は、私のレッスンを受けに来ていたのですが、正副会長と1~2名の役員の人が嘘と欺瞞によって、何も知らない会員を誘導し、多数派工作して結果に導いていったものです。

私は何時でも辞めることは吝かではありませんが、この様な形で手を引いてしまうと（自分の性格として、辞める時は浦安市のサークルや市民プラザなど、）全てのボランティアから手を引く事となります。また、指導員資格保有者の育成や指導にも影響が出る事（今迄の苦労は何だったのだろう）と思いました。

正副会長は役員会の決定として、2月3日の定例練習会（私が出席しない日）に急遽「臨時総会」（会則にない）を開催し、前述した如く「先生から辞任の意向があった」として、会員の決を取ったのです。

その翌日2月4日、正副会長と古場前会長・私の5名が新浦安駅の隣の喫茶店で話し合いを持ちました。それは、一方的に「昨日の臨時総会で〔4月から他のプロによるレッスンを行う〕、と決定された。」との通告でした。私は、当然、レッツダンスサークルの名称を使う事の禁止、会を解散し、残余金を市の然るべき公共団体に寄付することを要求いたしました。（これまた、会の設立時に約束したことです）

また、次の週のレッスン日に、会員に対し、「私は辞任するとは一言も言っていない」こと、「臨時総会を開催したことは会則に違反し、無効であること。」などを書面にして配り、説明しました。

[会則には] 第8条 「この会の会議は、総会及び役員会とし、総会は年1回、役員会は必要に応じ開催するものとする。」とあり、他のサークルのように、臨時総会についての規定は無いのです。

また、第5条には 「この会に、次の役員を置く。会長1名、**副会長1名**、会計1名、幹事若干名、監事1名。」とあり、会則の改廃に関しては総会にて議決を取ることが定められています。会長は、T.N氏を副会長に任命し、1度退会届を提出し、復帰したM前副会長と共に**副会長を2名**にしたのです。

会の根源である「会則」に沿わない[無知で・拙劣な運営]をしているのです。

M副会長は「役員会の決議で決まったもので、これが通らなければ、役員は辞任するくらいの固い覚悟で出しました。」と役員会の決定として会員に伝えています。後に役員を辞任した人は「その様な話は話題には出たが、議決は取っていない」と言っているのです。（この内容も、メールに保存してあります）

その様に、嘘と欺瞞によって会員を誘導していった執行部は、「先生は会の経理まで口を挟んできています。」と私を非難しています。私が、1月13日に役員会で話したのは「会則に沿って運営することです。」

私は前述の如く、通常の「雇われ講師」ではありません。対等な関係（ボランティアの講師）です。

私が今迄ボランティアでレッスンをやっていた為に、他のサークルより安い会費で、しかも、利益が出たのならば、今迄通り、公民館に機材を寄贈したり、身体障害者団体や恵まれない児童福祉に寄附するなりして戴けませんか、とお願いしたものです。

私にはその様な発言をする事も出来ないのですか。役員会は2回に亘って、会員総数の半分にも満たない人（理事を中心にした人達）で「無料の温泉旅行」など、預かっている会費を浪費してきました。

私は「有益に使って欲しい。」と言ったもので、夏や暮にやっている懇親会やホールに踊りに行った事を非難した訳ではありません。ましてや昨年の3:11の東北大地震の義捐金にタッタ3万円しか抛出しなかったのも、もっと寄附できたのではないかと聞いたのを、市の選挙管理委員長のT.N副会長が全員の前で「市に沢山寄附しても何処に行くか判らない、3万円が妥当と思う」と発言。(会員に確認済みです)市の囑託の人が言うことなので本当だろうと思った、と言っている会員もいました。本当でしょうか？

① 「レッツ」を創設してから、この15~16年間、常に2年に1回は、当初の目的通り「初心者コース」に戻り、新しい愛好者を増やすことを、役員会と共に行ってきました。この為に会員は増え続け90名を超える大きな会に育ってきたのも事実です。(基本は必要ない、競技会で使っている様なフィガーが習いたい人は、フィガーばかり教える様なサークルへ行けば、その会も会員が増える事でしょう)

古い会員も同じことを何回も繰り返す内にステップを覚えるだけでなく、悪い癖やリズム、姿勢や組み方の是正がなされ、優秀な人は指導員資格を取得、女性で覚えの早い人は、男性のステップを習うようになり(どこのサークルも女性が多かった)、また、途中でついて行けなくなりかけた運動神経の鈍い人も、コースが元に戻る為に、途中で辞めないで続ける、というように良い方向に回転してゆきました。

2年ほど前、会長に「初級コースの後半が終わった後、何時もの様に初心者クラスに戻りましょう。」と話したところ「これだけ人数が増えたから、その先(中級編)に進んで下さい」と言われたのです。

「指導員や長い間受けている人達は別として、始めて3~4年の人には中級編に進むことは無理です」と言ったのですが、役員会で決定されたのか、会長は固執したのです。(姿勢も出来ていない人には無理!)

案の定、ついて行けなくなった人、新しい人が入会できなくなり、90名以上いた会員が、80名、70名、60名と減少し、現在では50名を切っている状態になりました。(辞めた方は他のサークルに行ったと思うので、あながち浦安の愛好者が減る等、無駄ではなかったと思いますが、私の責任にしたのです!)

同じ「リバイズド・テクニク」(現在は、ボールルーム・ダンス・テクニク という)にある基本フィガーでも、例えば、ダブル・リバース・スピン、ターニング・ロック・ツー・ライトやフォーラウェイ・リバース・アンド・スリップ・ピボット など、良いポスチャー、正しいホールド、フットワーク、C.B.M.(身体の捻り)など基本が身に付いてない人が習っても、可笑しい形になり正しく踊ることは不可能なことは、経験豊かな講師であれば誰でも判っていることでもあります。先ずは、「基本」を身に付けさせる事です。

② 昨年の暮れに市民プラザの大ホールで会員のパーティを開くことになり、私に例年通り「パーティ・ゲームやパーティ・ダンスをする様(月例の2回以外で)に要請されました。私は、会則にもある「地域住民との交流」の意味からも、他の同じルーティン(ステップ・私の関係しているサークルは全て同じカリキュラム)で踊れるサークルとの交流が出来ないか、と聞いたところ、言下に「ノー」と言われたのです。

私も、「パーティには出席できません」と答えたのも行き掛かり上でした。

本来、社交ダンス(ボールルーム・ダンス)は、誰とでも、他のサークルの人でも踊れなければならない

筈です。自分達のサークル（全員同じルーティンでなければ踊れないのは）社交ダンスではありません。それには、いろいろな機会を利用して、パーティに出席、経験を積むことが重要でありましょう。多くの講師やサークルの会長は、自分達の会員を他のサークルに流失させないことだけを考えて、交流させない事を第一にしている、と言っています。如何に、自分の指導力に自信がないかを物語っています。

前述した通り、『今年に入り、私の方から「役員と懇談会を持ちたい」と働きかけ、「会則及び当初の目的・趣旨に基づき運営をしていって貰いたい、」と言った事に何の反論もなく、その後、2月3日、そして1カ月後の3月4日に突然、再度「臨時総会」を開催いたしました。その「臨時総会」も酷いものです。（当然、私は出席していませんから、出席した会員、それまでの役員…分裂後スウィングの役員を辞任した方達から聞いた事、及び、会長や副会長からのメール等、[全て記録済み]によるものであります。）

指田議長（当日久しぶりに出席した平会員）に、役員会が用意した文書を読み上げさせました。即ち、「本日の会議は、必要に応じて開催出来る、との会則に沿って行われますので問題ありません。」との事。

この事は、その後、当代島公民館で行われた「三者会談」[旧レッツ、新レッツ、市側（生涯教育課長、当代島公民館長）]の時に、出席していた本人（指田さん）から直接確認済みです。

如何に酷い「臨時総会」であったかは、この後にご説明いたします。

「会則」に明記してある通り（2頁前の第8条）「必要に応じて開催できるのは「役員会」です。それを、会則にも無い「（臨時総会）、会則に沿って行われます。」と、わざわざ断って開催したものですから、長野副会長が言う「会則に従って開催しなくても良い。」との主張も成り立たないのは明らかです。では、この様に、非常識な欺きに満ちた方法まで考えて、サークルの存続を図ったのでありましょか？通常は、その会の方針、又は講師が気に入らなければ、自分又は同調者と共に退会して他のサークルに入るか、又は、新しいサークルを結成するのが当たり前であります。それに対し、今回のその要因は…それまでの期間、積み立てた会員の会費（浪費をしても、多額の剰余金があった筈です）が欲しかった？然し、それよりも先輩達が20年にも亘って築き上げてきた「レッツダンスサークルの社会教育関係団体の認定」の奪取でしょう。[認定団体は、同じ公民館を月に2回、優先的に、無料で確保することが出来ます]。新しく作ると、1年間以上 会場探しに苦勞することになります。それで「乗っ取り」なのです。

二度目の「臨時総会」の採決も、今迄に無いやり方で行いました。T.N 副会長（市の選挙管理委員長）の主導で、「選挙管理」と称して、事前に用意した「無記名投票用紙」を配布、投票箱の中を、これ見よがしに会員に見せ、管理委員が開票する等、通常の前会で行われる「挙手・起立」等の議決方式を取らず、今迄のものとは異なるもの、と会員に印象付けたそうです。（選挙ではなく「採決」です）それまでは、県や市の選挙前になると三ヶ月間位、自分の立場があるから、と会を欠席していた人がです。

その採決も二者択一とし、会員からの第三の案として「もっと先生と話し合い解決を図っては？」との声も数の力で無視され、採決は強行されたのです。

その議決の設問は、非常に不公正・不適切なものであります。その二案とは…

- ㊤ 「従来通りの活動（会員による自主的運営）をしていき、4月以降は後任の先生を探す。」
- ㊦ 「篠田先生に残って頂くために、先生の意向に沿った運営をしていく」

反論. ㊤の「従来通りの会員による自主的運営をして行く」と認めている通り、私は今迄運営にタッチしてこなかった事は明らかです。私が何か不当な要求をしているかの如く会員に説明していたのです。

④の「先生の意向に沿って運営」ではなくて「会則に沿った運営」をして戴きたい」と言ったものです。1月13日に役員との話し合いで私が提言したのは、『レッツダンス」が始まった20年前の約束通り』、ダンス愛好者の増大の為に、初めてダンスを習う人が入ってこられる様に、「初心者コース」に戻ることに（これまで何回もそれを行ってきている）。とこのサークルだけでなく、他のサークルとの交流を図る為に合同でパーティを開催したらどうですか？と言った事の問題をすり替えて、(会員が増えて繰越金が大きくなったのだから『もっと有効に使ったらどうですか』と言ったのに対し)、「先生は経理にまで口を挟む」と「臨時総会？」で説明しているのです。

後日、A会長からのメールには、「先生を解任したというのは事実誤認です。先生の辞任の意向を受け入ただけです。」とあります。(先の採決の内容共々、メールに保存しています。)

今回の問題点は、一度退会届けを出した副会長が扇動して、自分達でやり易い組織にする為でしょう。

- 1) 私は自ら辞任するなどとは一度も言っていないのに、それを理由として講師の交代を決めたこと。
- 2) 会則に無い「臨時総会」を開催し、不公正な採択案で議決をとったこと。
- 3) レッツを設立した時の約束…どちらかが解散を要求すれば、剰余金は寄附することを守らないこと。
- 4) 「臨時総会」(不成立であるが)で議決したのは、④案の講師の変更だけであり、肝心の名称を変更して存続することは「議決」していない。即ち、(例え、話題に出たとしても)、会員の同意を得ていないで、名称変更を行った[正副会長の越権行為]です。、

また、M氏からのメールにも有る様に、市役所に何度も生涯教育課を訊ねて、その意見を聞いている様に、前生涯教育課長がこの問題に関与していることも問題でありましょう。又、T.N副会長の友人である石井当代島公民館長がよく調査もしないで、名称変更を受け付けたことにもあります。

私が最も激怒したのは、次のことを聞いてからであります。それは浦安公園体育館の練習室にて有志の人達が週に1回「練習会」を開催しているそうですが、その時、部屋に入ってきたM副会長が、ガッツ・ポーズをしながら「先生に勝ったぞ!!」と言いながら入って来たとの事を聞いた後でした。

私に勝つことが目的ならば、浦安市のダンス愛好家を増大するか、指導員を育てることではないでしょうか。未だに基本さえ身に付けられない人が言うべき言葉とは思えません。

私が作り、手渡した「初心者」「初級 1」「初級 2」「中級 1」「中級 2」のカリキュラムとルーティンによって、自分達でレッツの会を運営していけると思ったのなら大きな間違いであります。

私は、このガッツ・ポーズの話を聞いて直ぐに、3名の正副会長に「配達証明付きの内容証明通告書」を送りました。日本音楽著作権協会との折衝において「著作権法」を精査していたからです。

著作権法第63条には「著作権者は他人に対し、その著作物を許諾することが出来る。また、それ迄許可していた人に対しても、事情により使用を差し止めることも出来る。」とあり、「著作権者が死後50年間、その権利は継承者に引き継がれる」とあります。私は、ホームページ上の「教授者のために」にある様に、私のカリキュラムをそのまま、若しくは一部変更して使用することを許諾しています。

但し、浦安のダンス愛好者・指導員の増加に反する行為をとった人達及びスウィング・サークルには、使用させません。これは今後、スウィングに行った人にも適用されることも有るかも知れません。また、スウィングの名称を再度変更しても同様であります。(反すれば当然、裁判になります)

今回の問題について、私はこのまま放置しておく積りはありません。レッツダンスサークルの指導者や古くからの私への同調者の殆どが、レッツを元の様に盛大に立て直しましょう、と言ってくれています。

私は、損得ではなく、今回の様な不条理な・汚い方法で乗っ取った事が許せません。弁護士(2カ所の)と相談して、費用は問題ではなく(自伝、をお読みください)「横領」による地裁への提訴も考慮中です。

その後、市役所で新しい生涯教育課長に、その事を話したところ、「それは人間性の問題ですね。」と言っていた様に、長期間レッスンを習ってきた者が言える言葉でしょうか？ 確かに、人間性の問題です。

孔子の門人たちが、師から教わった「言葉」を編纂したものが「論語」であり、そのキーワードが「礼」と「仁」であると言われていますが…。

「礼」とは、文字通り、マナーとか礼儀作法であり、「仁」とは、心の徳（よさ）であり、思いやり、特に孔子が提唱した道德観念です。 その中から一つ紹介させて戴きます。

論語の巻6、第12編に次の様な「ことば」があります。皆さんはどの様に受け取られるでしょうか？

礼に非ざれば（あらざれば）ば 視ること勿れ（なかれ）。 礼に非ざれば 聴くこと勿れ。

礼に非ざれば 言う事勿れ。 礼に非ざれば 動く事勿れ。

その意味は、「非礼は見るな聞くな、非礼な人とは言葉を交わすことも行動も共にするな。マナーの悪い人と一緒にいると自分を駄目にする。」です。（福田晃市氏著）

私は、早くその方達を識別できて良かった、とも思っています。今後は「路傍の人」となりましょう。

新しいレッツ・ダンス・サークル（我々は継続中と思っていますが）は、4月中は会場が取れず、5月からスタート致しました。毎回50名前後の会員が参加してくれて、以前にも増して活気の有る良いサークルとなりました。指導員も25名程度の内、スウィングに残った人は僅かに5名（その内の1名M副会長は私が育てた指導員ではありません）、その他の多くの指導員が各サークルで助けてくれています。

10月までは、会費も無料、以前の様に浦安市のダンス愛好者を増やす為に「初心者コース」に戻り、基本を大切に、レッスンを行っています。その他の方も最初の数カ月は無料で体験して戴く予定です。

私達が元の金曜日の7時からレッスンをスタートさせた事を知ったスウィングの人から「何も同じ曜日に始めることはないではないか？」とのクレームが入ってきました。

私が20年前に始めた時から毎週金曜日であり、私個人としても水曜日はB.D.J.の会議があり、日曜日は各種のイベントがあることが多く、他の曜日は全てサークルが入っていて他の曜日は考えられません。

レッツダンスサークルが20年間行ってきたレッスンを卑劣な手段で強奪しておいて、同じ金曜日を使うな！とはよくも言えたものです。（如何に破廉恥な人達であることがお分かりでしょう！）

スウィングは、レッツダンスサークルに代って、浦安ダンス協会に名義変更の届け出を試みましたが、浦安ダンス協会の理事会は拒絶し、今迄通り「レッツ」が協会の一員として活躍しています。

私も今迄通り、無料で講習会や審査員を引き受けています。ワン・コイン（500円）パーティや、トライアル（その日に抽選でパートナーを決めて、各種目の競技会を行う形式）も9月2日に行い、会員以外の参加者も多く、とても好評だった事が役員をやる気にさせています。

私は一方的な情報で、サークルの指導を辞任した、と思われるのが厭で、私の後任として指導を頼まれた鈴木夕美先生に今迄の一切（このブログの内容）をお知らせ致しました。私は誓って指導を辞める様なことは触れていませんが、先生は懇切丁寧なお手紙とお電話により指導を辞めるとの連絡がありました。

役員会では私が圧力を掛けた、と言っているそうですが、私の責任ではありません。 以上

この後は、義捐金に対する[浦安市]の対応と共に、今回の[浦安市教育委員会]、[当代島公民館館長]、及び[前生涯学習課長]のサークルに対する措置について書いて参る予定です。